

エヌ・イー ケムキャットは、レスポンシブル・ケア(RC)活動を「ビジョン2030」を達成するための16のキードライバーの一つとして位置付け、積極的に推進しています。

RC活動

RC活動は、世界約70カ国の化学工業協会で開催されています。化学製品の開発、製造、物流、使用から最終消費、また廃棄に至るまでのライフサイクルにおいて、「環境・安全・健康」を確保することを約束し、環境安全対策について実行・改善を図る、化学工業界の自主的な取り組みです。その成果を公表し対話をする事で、社会からの信頼を深めることを目的として、日本化学工業協会(JCIA)内に設立されたレスポンシブル・ケア委員会に、当社は2020年度より参加しています。



レスポンシブル・ケア方針

当社は、環境・安全・健康を最重要事項と認識し、自主的・継続的なレスポンシブル・ケア活動として以下のことに取り組む。

- (1) 製品の開発から廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたって、環境負荷の低減と環境保全を図る。
- (2) 「安全は全てに優先する」を基本に、無事故・無災害を目指し、安全な職場環境の整備および設備の保安管理に取り組み、全ての事業従事者および地域社会の安全確保を図る。
- (3) 原料、中間品、製品などにおいて取り扱う化学物質の安全性を確認し、それらの適切な取り扱いに関する情報提供を行い、従業員、物流関係者、顧客など関係する人々の安全・健康に配慮する。

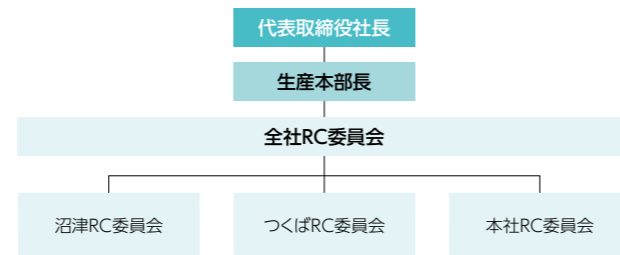
以上の活動の成果を社会に開示し、ステークホルダーとの適切なコミュニケーションを図る。

RC推進体制

当社では、RC活動を推進するためにRC委員会を設置しています。

2023年度は、当社における製品の全ライフサイクルにわたって、さらなる環境・安心・健康を確保するため、保安防災・物流安全の項目も包括したRC方針およびRC推進体制を定めました。RC委員会では、方針の重点事項に基づき、目標達成に向けて実行計画の遂行についてのマネジメントを行っています。

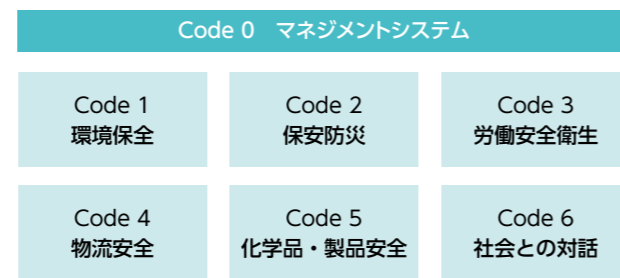
RC推進体制図



RCマネジメントシステム

当社は、レスポンシブル・ケアマネジメントシステム(RCMS)を活用して、RC活動を展開しています。RCMSは、ISO14001、OSHMS(ISO45001)の要求事項を満たしており、コードごとに管理内容が明確にされています。

RC活動の基本(6つの柱)



RC監査体制

RCMSに基づき、年1回、各事業所においてRC監査を実施しています。

RC検証

2023年度は、つくば事業所におけるRC活動について、JCIAによる活動検証を実施しました。

RCMS各コードの達成率

| RC検証評価点 | マネジメントシステム | | 物流安全 | |
|---------|------------|----------|----------|-----|
| | 環境保全 | 91% | 化学品・製品安全 | 59% |
| 保安防災 | 68% | 化学品・製品安全 | 73% | |
| 保安防災 | 84% | 社会との対話 | 67% | |
| 労働安全衛生 | 98% | 総合 | 78% | |

地球環境保全への積極的な取り組みは、企業が果たすべき重要な社会的責任です。エヌ・イー ケムキャットは、事業活動のすべてのプロセスにおいて環境への影響に配慮しています。

環境マネジメント

当社は、「企業の社会的責任を果たし、私たちを取り巻く環境や社会との共生を図る」ことを経営理念として定め、事業を通じ積極的に環境保全活動に取り組んでいます。

環境マネジメント推進体制

各事業所にて事業所長を議長とする環境保全委員会を設置し、RC項目のうち「環境保全」「化学物質管理」「エネルギー」に関する取り組みを推進しています。

その進捗は、全社として生産本部長を議長とするRC委員会に報告され、監督しています。

環境マネジメントシステム

当社は、環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得し、継続的なマネジメントシステムの改善を行っています。また、環境マニュアルを定め、日々の業務において環境活動を行っています。

環境マネジメントシステムの認証取得事業場

| | |
|---------------|--------------|
| ISO14001:2015 | 沼津事業所、つくば事業所 |
|---------------|--------------|

環境教育

当社では、社員に環境マニュアルの浸透を図るとともに、環境意識の向上や各種環境関連法令を遵守するための教育・訓練を実施しています。

2023年度の環境教育・訓練プログラム

| 教育訓練名 | 実施事業所 |
|---------------|--------|
| 環境月間(社長メッセージ) | 全社 |
| 内部監査員講習 | 沼津/つくば |
| 環境パトロール | つくば |
| 高圧ガス(LNG)漏洩訓練 | つくば |
| 薬品漏洩・緊急遮断弁訓練 | 沼津/つくば |
| 塩素ガス漏洩訓練 | 沼津/つくば |

環境負荷低減への取り組み

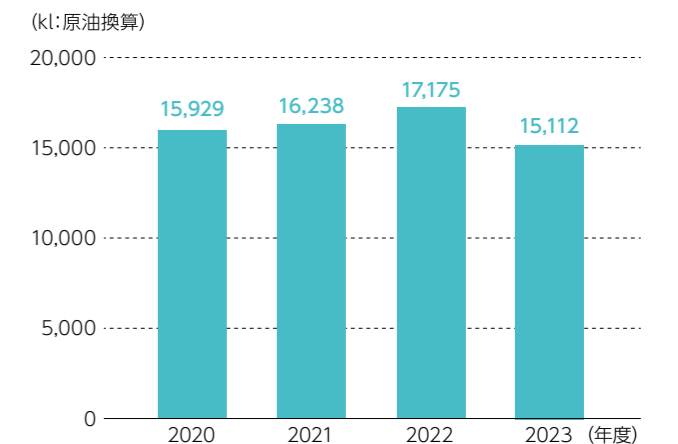
省エネルギーの推進

当社は、エネルギー管理委員会において、省エネルギーに関する新技術導入をはじめ、全社のエネルギー計画の推進を行っています。

また、事業活動全般における環境負荷物質の低減や環境事故・労災防止の徹底をビジョン2030実現のための16のキードライバーの一つとして位置付けて、取り組んでいます。

2023年度は、生産工程の改善や老朽化した設備の更新等の計画を実行し、省エネルギーの推進に取り組みました。

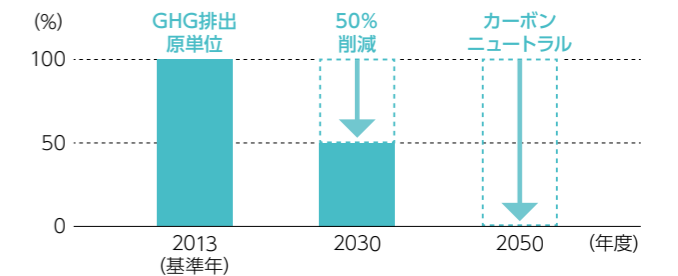
エネルギー利用量の推移



GHG排出原単位の削減

当社は、2030年に2013年対比でGHG(温室効果ガス)排出原単位50%とすることを目標に掲げ、地球温暖化の原因とされているGHG排出量の削減に向けた取り組みを進めています。

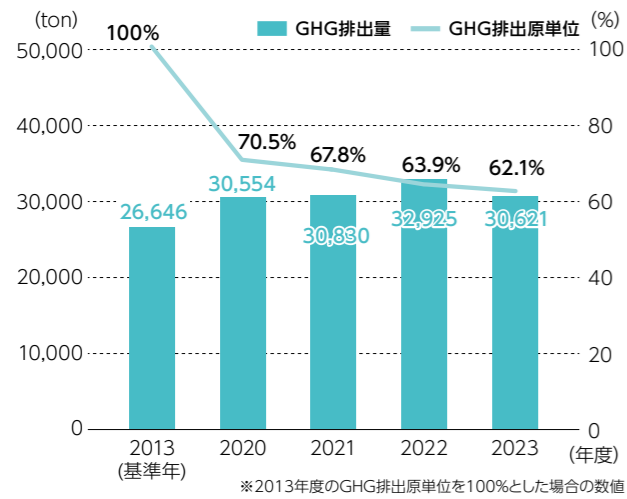
GHG排出原単位の削減目標



【目標達成に向けた取り組み】

- ・使用する電力やLNGの省エネルギー・ロス削減対策 (LED照明の導入、効率の良い空調機器の導入)
- ・エネルギー効率の高い設備・技術の導入
- ・開発・生産効率の改善
- ・再生可能エネルギーの導入

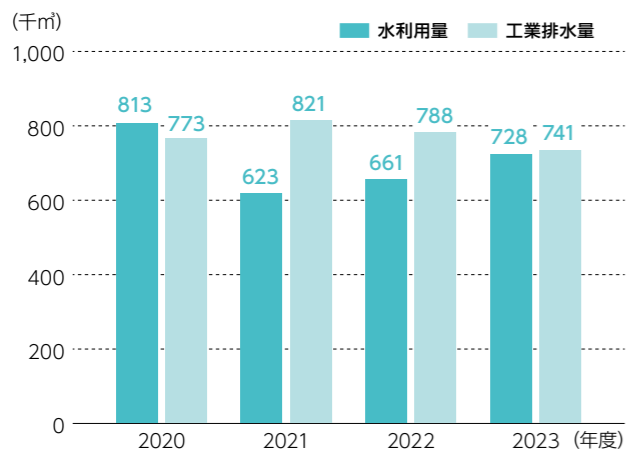
GHG排出量およびGHG排出原単位*の推移



■ 水資源の有効利用

当社は、独自の水設備を導入しており、水使用量の最小化に努めています。また、一部排水については屋上散水などに再利用しています。

水利用量および工業排水量の推移

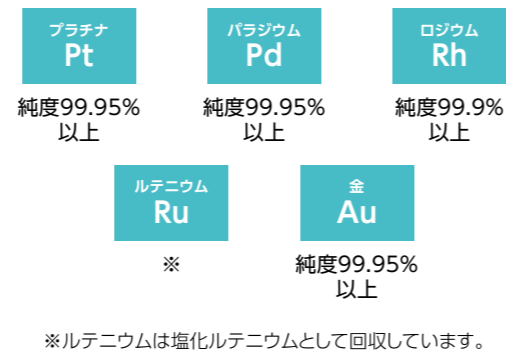


■ 資源の有効活用

■ 貴金属のリサイクル

使用済みの触媒に含まれる貴金属(Pt, Pd, Rh, Ru等)は重要な資源です。当社では、自社に回収精製の施設を有し、廃貴金属触媒に複数の貴金属種、添加元素、あるいは使用中に付着した被毒元素などが含まれる場合でも、適切な分離回収技術により高品質な貴金属を回収し、精製することが可能です。

各金属については、以下のとおり純度99.9%以上の精度で回収を行っています。

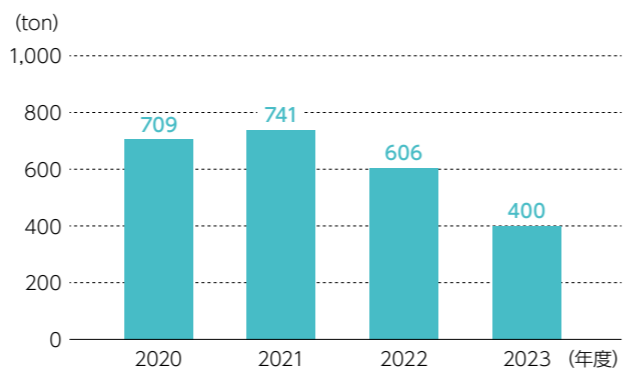


貴金属回収をより効率的に行えるよう、新たな吸着剤の開発など回収技術のさらなる向上に努めています。

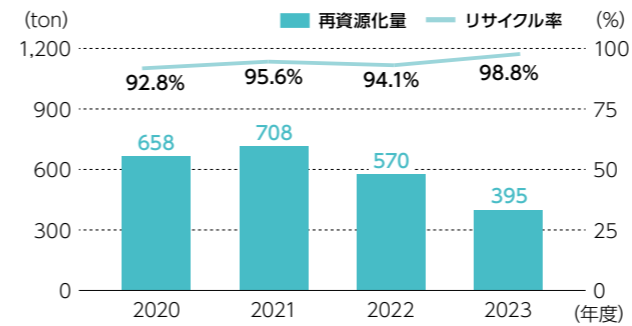
■ 廃棄物の削減

当社の廃棄物のなかで最も多くを占める排水中の汚泥の削減に向けて、生産工程の見直しや装置・機械の入れ替えなどに取り組んでいます。

産業廃棄物排出量の推移



産業廃棄物の再資源化量およびリサイクル率の推移



■ 化学物質の管理

当社は、社内で扱う化学物質に加え、設計、製造から納入に至るプロセスで使用するすべての原材料および製品に含まれる化学物質の管理体制を構築しています。

■ 化学物質関連法令の遵守

当社では、「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)」「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)」「労働安全衛生法」などの関係法令を踏まえ、「化学物質管理規定」において管理手順を定め、化学物質の適正な管理をしています。

また、REACH規則への取り組みとして、EU向け輸出製品について、年間数量の確認および必要な登録を実施しています。

■ 製品含有化学物質の管理

製品に含まれる化学物質については、サプライチェーンの各フェーズ(①購買、②製造、③引き渡し)の管理基準を明確にし、サプライチェーン全体において適切な管理ができるように取り組んでいます。

サプライチェーン全体で製品含有化学物質の管理を行うには、化学品(原材料)から変換される製品・中間体の含有化学物質を適切に管理することが鍵となります。

当社では、製品の設計開発段階からサプライチェーンにおける含有化学物質の確認および法令該当の有無を検討し、化学物質量の管理や混入汚染の防止等を組み込んだ製品設計および工程設計に取り組んでいます。

■ 生物多様性への取り組み

沼津市にて事業を行う当社は、狩野川の支流である黄瀬川や、流入河川の水質・環境保全の促進を目的に活動している「狩野川水系水質保全協議会」に参画し、水環境保護活動に取り組んでいます。同協議会では、2023年度は水生生物の観察会や清掃美化、生物多様性や外来生物についての環境講演会等の活動を行っており、同団体に所属し活動を支援することで、魚や鳥等の多くの生物を育む狩野川水系の水質を守り、生物多様性の保全に貢献しています。(P34参照)

サプライチェーンと製品含有化学物質の管理

